

北洋における漁期の海況（1964）

進士 福太郎（気象庁）

この報告は本会報才2号（22-25）、才4号（143-144）の要領により主として50°N線と167°E線の概況をまとめたもので、観測計画によるものではない。

1) 50°N線（160°～175°E）における表面水温と50m層水温

(1) 表面水温：5月中旬から6月上旬は昨年（1963）より低く（164°E以西3°C以下）、6月中、下旬は約1°C 昇温して、昨年よりやや高めになり、その後は昨年より低めに経過している。

(2) 50m層水温：163°E以西は6月下旬まで1°～2°Cで昨年より1°～2°C低く、ベーリング島沖は6月中旬頃まで3°C内外、6月下旬は5°C（アラスカ系暖水）で、昨年より低めに経過している。しかし、アッツ島南沖は7月中旬まで4°Cであつたが、7月下旬には暖水（68°C）におおわれ、昨年より高めになつている。

2) 50°N線における5月下旬と7月中旬の水温鉛直分布（75m層まで）

5月下旬アラスカ系暖水の西進は約100海里ほどおくれしており、7月中旬に8°Cの暖水がようやく170°E付近に達しているが、その厚さは昨年の半分程度の10mほどで、昨年170°E付近にみられたような暖水は175°Wにあつて、700海里ほど東になつている。

3) 167°E線（46°～53°N）における表面水温と50m層水温

(1) 表面水温：5月中旬に2°Cであつた北部の低温水が、6月中旬には6°Cになつて、この頃は南北とも昨年より高めになつているが、その後は昇温がおそく、8月上旬になつてやつと昨年の7月下旬並に近い水温になつている。

(2) 50m層水温：5月中旬に1.8°Cであつた北部の冷水が、6月上旬から7月中旬には3°Cになり、7月下旬には5.7°Cの暖水が一部にみられ、この頃北部は昨年より高めになつている。

4) ま と め

両線以外の資料も入れまとめてみると、漁場の水温が1961年以降の5カ年では本年が一番低く、50m層の水温は漁期をとおり昨年より1°～2°C 低めになつている。